

旧長崎地方裁判所長官舎

この建物は長崎控訴裁判所長の住宅として 1883 年に建てられた。1945 年に上訴院が福岡に移された後、歴代の長崎地方裁判所長と家族がここに住んでいた。元々、上町（うわまち）に建てられていたが 1979 年に現在の場所に移築された。

明治時代（1868-1912）には、長崎外国人居留地には 800 棟もの洋風の建物があったが、現在は約 70 棟が残っている。この建物は、日本政府が高官のために建てた洋風建築の初期の例として非常に貴重な建造物である。

外観は明らかに西洋風だが、内観は日本と西洋の建築様式が混在している。広々としたエントランスと上げ下げ窓があるが、多くの部屋は畳で、煙突がない。当時、西洋風のファサードは威信と近代性の象徴であった。

採用番号 NO :	023-013
-----------	---------